

原著<論文>

認定こども園・保育所職員オンライン研修の効果  
——講座振り返りコメントのテキストマイニング分析から——

小野 隆\*1 清水 寛子\*2 岡田 繁雄\*3 岡田 ひろみ\*4

1. はじめに

近年、保育教諭へのキャリアアップ制度の義務化を受け、園外での研修はもちろんのこと、園内職員研修の重要性が増してきている。現場で求められている研修の内容の幅はとて広いと、多様なテーマについて様々な形で実施されている。今回は、保育の質を高めるための知識の構築と職員間の連携に着目する。

研修というと受け身になりがちであるが、本研修では全員が「本音で臨む研修」を目指し、①講座講師が導入で手遊びからの「お話マスク」やリズム体操で場を温める、②心理学的アプローチや語り合い等により職員同士が分かりあえる機会を設ける、③講座の前には予習を行い予め講師に質問を送り、講座の後には感想を職員間で共有する等の工夫を行っている。

2020年度は保育内容領域「健康」をテーマに全8回の研修を企画しており、今回はその第5回について、研修の内容を継続的にブラッシュアップしPDCAサイクルを回転させるべく、研修の効果について検証することを目的とする。

〇認定こども園及びOP保育所の保育・教育理念の柱である「食育」と「共育」につながる内容として、保育教諭・栄養士・看護師と保護者の連携等の事例も確認し共有したいと考える。そこで、保護者との連携を密にするという「共育」を目指しているこの園の方針に則り、子育て支援力のスキルアップや知識・意識・意欲の向上に繋がられているかどうか、今回の研修の効果がどの程度あるのかについて明らかにしたい。

---

\*1 名古屋柳城女子大学  
\*4 筑波研究学園専門学校

\*2 おおぞら認定こども園

\*3 NPO 法人ポノポノクラブ

## 2. 研究方法

研究の手順は以下の 1)~6)の通りとした。

- 1) 第 5 回「生きる基礎としての体を育てる」の「子どもと食育」部分に焦点を当てた。
- 2) 以下の 4 点について、それぞれのコメントを事前に LINE ノートで共有した。
  - ①テキスト<sup>1)</sup>該当部分の要約と演習課題
  - ②食に関する現代的課題と保育現場での対処
  - ③和食文化の良さを伝える取り組みのアイデア
  - ④食物アレルギー対策
  - ⑤絵本『ともくんのほいくえん』<sup>2)</sup>の感想
- 3) オンライン講座当日の前半 30 分で、パワーポイントによる該当部分のスライドショーのレビューを実施した。
- 4) 後半 30 分で 5 チーム各 3-4 名ずつに分かれた。

「楽しく食べる子どもに—保育所における食育に関する指針」<sup>3)</sup>の目指す子どもの姿

  - ① お腹がすくリズムのもてる子ども
  - ② 食べたいもの・好きなものが増える子ども
  - ③ 一緒に食べたい人がいる子ども
  - ④ 食事づくり・準備に関わる子ども
  - ⑤ 食べものを話題にする子ども

これらの 5 つの姿をもとに、各チーム 1 テーマずつ担当し、その関連する事例を日々の保育から抽出し、最後に紹介・発表し合うという内容とした。
- 5) 講座直後の 30 分間で、振り返りコメントを各自が記述した。また、その内容を LINE ノートで共有した。
- 6) 参加した教職員 15 名（保育教諭 13 名・栄養士 2 名・看護師 1 名）の講座振り返りコメント（計 92 の文）と絵本の感想（計 37 の文）に対し、KH Coder によるテキストマイニング分析<sup>4)</sup>を実施し、描画された共起ネットワーク図をもとに、得られたサブグラフやテキストの内容を確認し、今回の研修内容とその効果について検討した。なお、コメントや感想におけるテキストの表記ゆれに関しては、「子」「こども」「子供」についてのみ、すべて「子ども」に統一した。

### 3. 研究結果および考察

研修直後の振り返りのコメントの内、代表的なものを以下に示す。

「食の大切さを、どのようにして子どもたちに伝え、保護者にも気付いてもらい、実践に結びつけていくか？子ども時代の食生活は、育ちにも心にも大切なことだからこそ、現場での学びや啓蒙等の実践が大切」

「生活リズムの乱れ、食生活の乱れ、挨拶など、基本的なことが気になる子どもが、踏ん張る力が弱かったり、コミュニケーションがうまく取れなかったりしがち」

「絵本は、分かりやすく子どもにも理解しやすい内容で、一緒に食べられない子どもの気持ち、納得していない子どもへの言葉かけまで丁寧に描かれていて良い」

「今後の取り組みに是非生かしていきたい」

これらの講座振り返りや絵本の感想が得られたことから、知識・意識・意欲の向上に繋げるという研修の効果が得られたものとする。

以下の図1は、講座直後の振り返りのコメントから得られたものである。

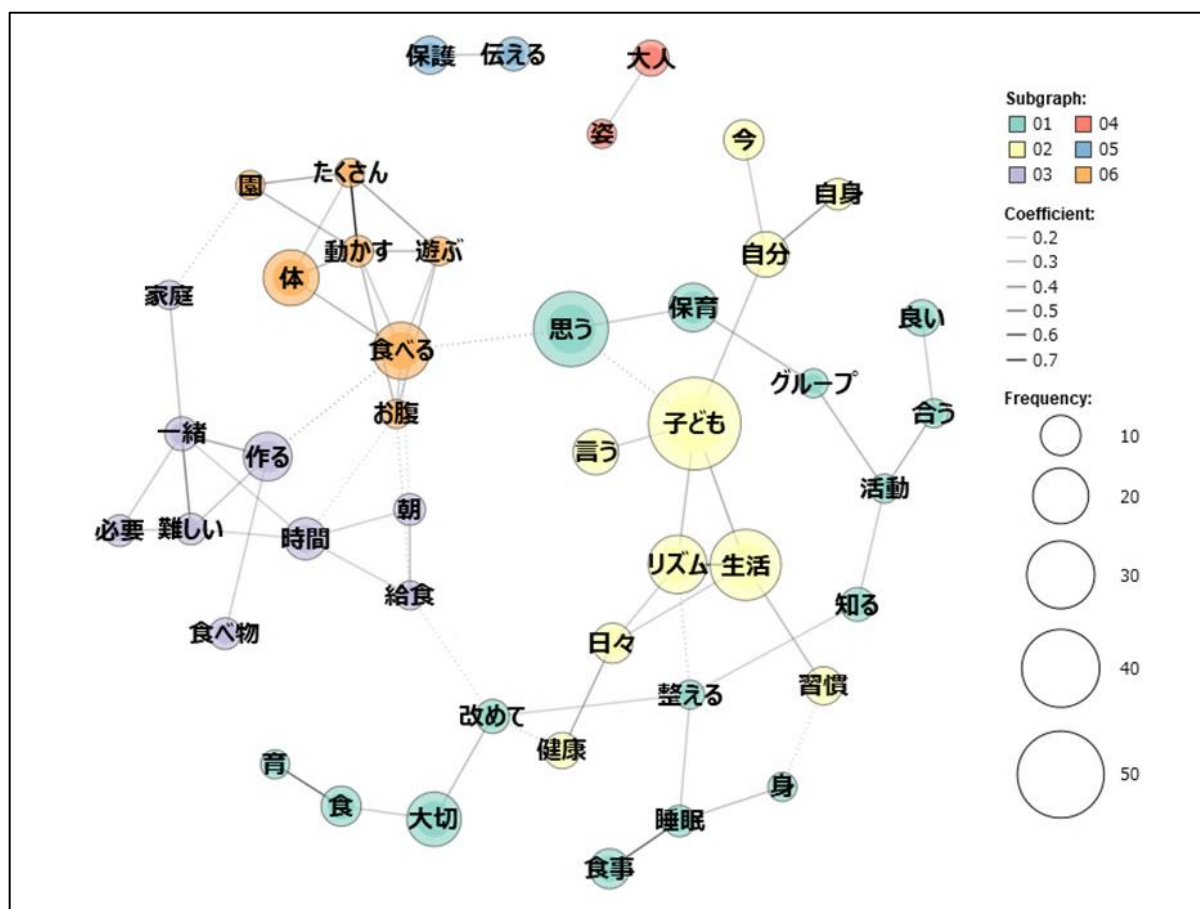


図1. 講座振り返りコメントの共起ネットワーク

この図1では6個のサブグループが検出されたが、図をもとに各コメントを確認したところ、その1つの「保護者に伝える」ことの重要性や、もう1つの「大人の姿」が子どもの鏡となることについての指摘が見受けられた。今回の研修に対する振り返りコメントでは、子どもの生活リズムが健康的な習慣づくりに関わることを自分自身の生活習慣を含めて考え直す趣旨のコメントが多く見られた。家庭での食生活に対する心配な点への指摘とともに、園での運動遊びの時間を確保し子どもがお腹を空かせておいしく給食を食べられる環境に繋げることや、食育につながる野菜の栽培・収穫などの活動の機会を増やすことを記述するものが多かった。

以下の図2は、講座で使用した絵本の感想のコメントから得られたものである。

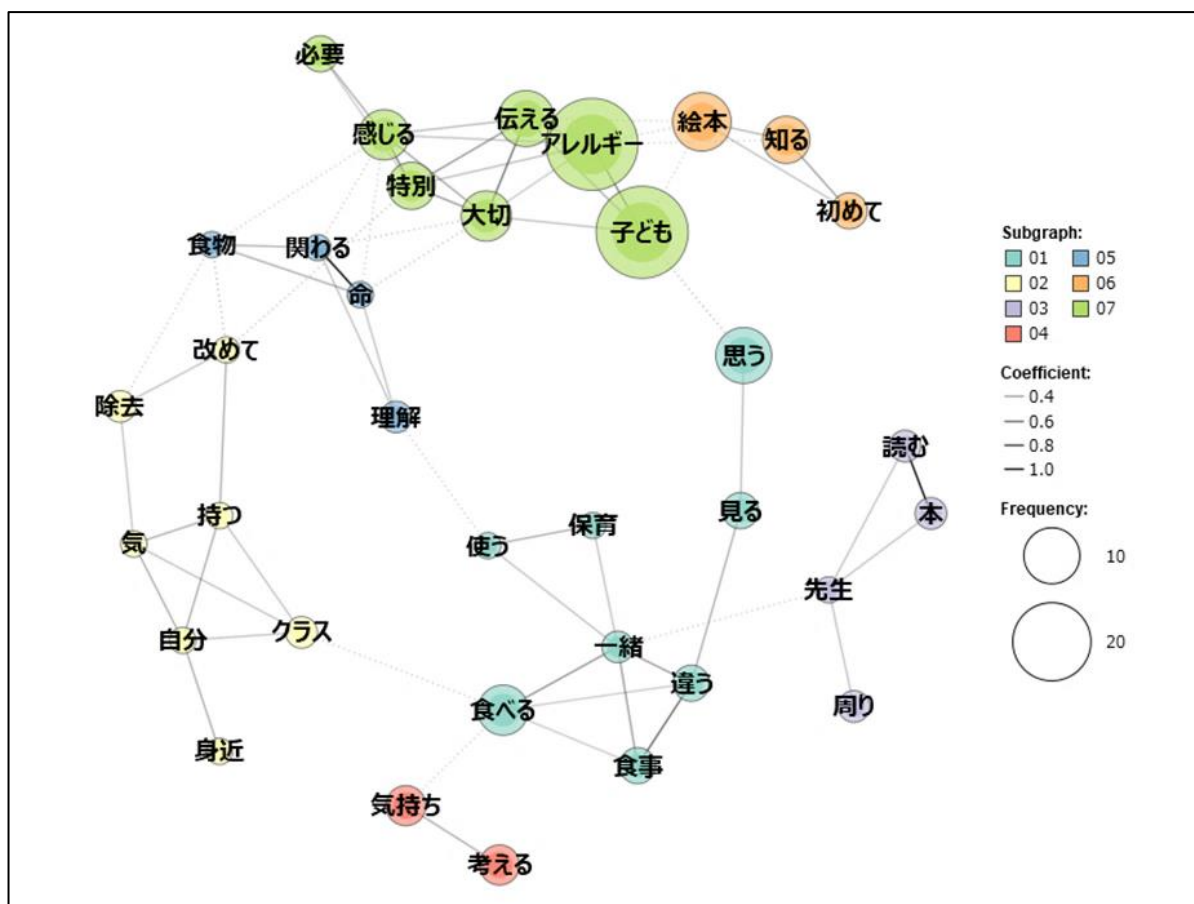


図2. 絵本「ともくんのほいくえん」の感想の共起ネットワーク

この図2からコメントを確認した結果、このような食物アレルギーに関する絵本を初めて知ったとする記述が多く、またアレルギーの有無に関わらず保育者と共に食事することを大切にしたり、絵本を通して子どもたちに伝えたりしていきたいとの記述が多かった。

#### 4. まとめ

保育・幼児教育の明るい未来のためには、現場職員のスキルアップが最重要との考えのもと、O認定こども園及びOP保育所では独自の各種研修プログラムを企画・実施している。また、コロナ禍の中、オンラインによる愛知・福岡・茨城という距離を感じさせない研修を導入している。

以前から園では「食育」に力を入れてきており、今回の研修では図1の様に、これまでの実践の成果を確認し合い共有する場となった。

また、食物アレルギー関連の絵本を教材とすることにより、図2の様に、保育教諭・栄養士・看護師等の教職員の間での現状認識と共通理解が可能となった。

さらに、「共育」を目指している園の方針に則り、職員らの保護者との連携を密にしたという講座振り返りのコメントや絵本の感想から、子育て支援力のスキルアップに寄与するための知識・意識・意欲の向上に繋げるという研修の効果が得られ、今後も継続的に研修を実施することの重要性が示唆されたものとする。

#### 謝辞

この論文は、日本保育者養成教育学会第5回研究大会（大妻女子大学）にて2021年3月4日にポスター発表された原稿に加筆したものである。本研究調査にあたって協力を仰いだ幼保連携型認定こども園おおぞら認定こども園の皆様ならびに小規模保育所おおぞらばれっとの皆様には感謝を表したい。

#### 引用文献

- 1) 津金美智子・小野隆・鈴木隆 編著 『健康 新・保育実践を支える』 福村出版 2018  
居崎時江 著 4章4節「子どもと食育」分担部分
- 2) 栗田洋子 作 『ともくんのほいくえん（改訂版）』 明元舎 2020
- 3) 厚生労働省 保育所における食育のあり方に関する研究班「楽しく食べる子どもに—保育所における食育に関する指針」2004
- 4) 樋口耕一 著 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』 ナカニシヤ出版 2014

要旨

Effect of Online Training for Certified Childcare Center / Nursery Staff:  
From Text Mining Analysis of Lecture Review Comments

Takashi ONO\*<sup>1</sup> Hiroko SHIMIZU\*<sup>2</sup> Shigeo OKADA\*<sup>3</sup> Hiromi OKADA\*<sup>4</sup>

本研究の目的は、2020年度にO認定こども園およびOP保育所職員に向けて保育内容領域「健康」をテーマに全8回のオンライン研修を企画した中の第5回について、研修の内容を継続的にブラッシュアップしPDCAサイクルを回転させるべく、研修の効果について検証することであった。研修に参加した教職員15名（保育教諭13名・栄養士2名・看護師1名）の講座振り返りコメントと講座に使用した絵本の感想に対し、KH Coderによるテキストマイニング分析を実施し、研修内容とその効果について検討した。その結果、今回の研修において、以前から園で力を入れてきている「食育」の実践の成果を確認し合い共有する場となったことが推察された。また、食物アレルギー関連の絵本を教材とすることにより、参加した保育教諭・栄養士・看護師等の職員間での現状認識と共通理解が可能となった。さらに、「共育」を目指しているこの園の方針に則り、保護者との連携を密にしたいという職員らの講座振り返りのコメントなどから、知識・意識・意欲の向上に繋げるといふ研修の効果が得られており、今後も子育て支援力のスキルアップに寄与するための継続的な研修の重要性が示唆されたものと考える。

キーワード： 保育者 研修 オンライン 効果 テキストマイニング

---

\*1 Nagoya Ryujo Women's University

\*2 Oozora Center for Early Childhood Education and Care

\*3 NPO Ponopono Club

\*4 Tsukuba Institute of Science & Technology